



# 日本風景街道 銀の道広域案内板除幕式



道の駅「ゆめランド布野」にて

三次河川国道事務所

令和3年7月4日に三次市布野町下布野にある道の駅「ゆめランド布野」で銀の道広域案内板の除幕式が開催されました。銀山街道・陰陽を結ぶ銀の道は、国土交通省の施策である日本風景街道に平成25年度に登録されました。尾道松江自動車と並行する国道54号の地域活性化を図ろうと様々な活動を行っている街道沿線の民間活動団体で組織した「銀の道広域連携実行委員会」が設置した第1号の銀の道広域案内板です。

【除幕式日】 令和3年7月4日

【主催】 銀の道広域連携実行委員会

【設置場所】 道の駅「ゆめランド布野」



銀の道広域実行  
委員会会長

(案内看板をクリックで拡大します)

(一社)中国建設  
弘済会理事長



道の駅  
「ゆめランド布野」  
駅長

三次市長

三次河川国道事務所長

(クリックで元の画面に戻ります。)

# 銀の道

銀の道を歩く旅  
赤名～布野～三次

銀の道（江戸時代、石見大森銀山から尾道まで灰吹き銀を運んだ道）  
石見大森銀山は、中世から近世にかけて多くの灰吹き銀を産出し、戦国時代の毛利氏、近世の江戸幕府を助けた。中世、銀山から日本海側の温泉津沖泊港を経て海外や日本国内に移出されたことから、世界遺産に登録された。近世、徳川幕府の直轄地（天領）となる。安全に銀を大坂の銀座に運ぶため、大森から、中国山地赤名峠を越えて、尾道に運ぶ約130kmの道を整備した。銀は大森銀山を出発、宿泊地である九日市、三次、甲山を経て尾道に至る。尾道から海路で大坂に運んだ。

飯南町赤名～布野～三次の銀の道程  
赤名の宿は出雲と備後の接点として栄え、宿場町の景観を残している。赤名からならかな道の後、赤名峠にさしかかる。峠には国境の碑が今も残る。赤名峠を下ると三次市布野町横谷に入る。銀の道はここから再び山越えの道を行き、仏ヶ峠（ほとけがたお）を越える。この峠を下ると布野の宿に着く。布野は、現在の国道54号、明治の道、江戸時代の道の三本の道が通っている。布野の宿を過ぎると、山家を超えて、西城川にでる。西城川を下ると三次の宿につく。山家の一里塚は今でも残る。布野の道の駅から、赤名までバス路線もあり、赤名（赤来道の駅）から布野宿経由、布野の道の駅まで歩いてみるのも楽しい。

銀の道広域連携実行委員会

日本風景街道  
ちゅうごく

SCENE BIKWAY APPEARANCE HILLING



## 銀の道沿線の史跡(拠点スポットのご紹介)



飯南町

### 1 赤名の道標

銀の道は赤名で出雲大社への参詣出道として整備された出雲街道と合流する。街道脇には、1856年に建てられた道標が残っている。



### 2 赤名峠

出雲国と備後国との国境で昔から難所として知られていた。当時の街道は赤名側の国道54号を斜めに横切る急坂であった。



### 3 ついもん祠

これと同じ伝承を持つ「梅雨左衛門」という岩が、大森にもある。当時の幹線道沿いにあることから、大森から伝わったものかもしれない。



### 4 仏ヶ峠

川沿いの木立の中を登っていくと開けた峠に出る。古い石仏と牛馬観音が建っている。ここから先の布野の道は全て下り坂である。



### 5 布野の宿

瀬戸内と山陰を結ぶ広島藩最北の宿駅で、陰陽交通の要衝として早くから町が形成されていた。当時の道筋が市街地に残っている。



### 6 山家一里塚

広島藩が、1633年から藩内の街道を整備した。この時設置された一里塚があり、東側は塚の遺構が比較的よく残存している。

## 銀の道沿線 交通のご案内

バスでの移動



銀山街道沿線市町等連絡協議会  
銀の道広域連携実行委員会・銀の道を歩く部会

協力：国土交通省三次河川国道事務所・三次市・一般社団法人中国建設弘済会